

指導教員名	福岡 寿美子
-------	---------------

活動区分	地域活性化型	連携先	自治体・国

～ 加東市との社会共創プログラム ～

活動の様子



フィールドワーク1(播磨中央公園)



フィールドワーク2(東条湖おもちゃ王国)

企画・活動概要

観光を通じた地域産業の活性化のために、加東市内で、観光客をより長い時間滞在させる施策・事業の提案を行う。6/11(土)[10:00～17:10]フィールドワーク:播磨中央公園、滝野温泉ぼかぼ、闘竜灘、とどろき荘、モビレージ東条湖、東条湖おもちゃ王国、道の駅とうじょう等々のフィールドワークを行う。8/25(木)[10:30～16:00]中間研究発表会:全14チーム[発表5分・アドバイス10分]福岡ゼミからは、かとう伝の助隊と加東市を盛り上げ隊の2チームが参加。10/1(土)[10:00～16:00]最終研究発表会:全13チーム[発表10分・質疑応答5分]

経緯・背景・目的

加東市には、東条湖、東条湖おもちゃ王国、モビレージ東条湖、播州清水寺、朝光寺、播磨中央公園(年間40万人の来訪)、闘竜灘、ゴルフ場など、さまざまな観光資源がある。そして、加東市は兵庫県の間接地にありながら、京阪神からの家族、夫婦の来訪が多く、観光地(業)としての能力(魅力)がある。これらの観光資源を生かし、観光を地域産業にするために、既存施設の有効活用方法や滞在時間を延ばし地元消費につながる仕掛けづくり、情報発信の強化策などを、若者ならではの斬新なアイデアや視点を盛り込んで提案することを目的とする。



ブレインストーミング(参考図書資料等を基にアイデアを練る)

取り組む課題

内閣府のRESAS(地域経済分析システム)によると、加東市には、兵庫県下で第8位となる約24万人の宿泊者が訪れている。また、観光庁によると、観光などによる交流人口は、宿泊者26人分、日帰り83人分で、定住人口1人分にあたる経済効果があるとされているが、加東市の商工業者においては、それほどの実感を持っていない。宿泊者数に対して経済効果の実感がないことから、加東市に宿泊者はいても、経済効果が出るほどに滞在していないことが考えられるので、加東市への来訪者が、少しでも長い時間滞在するような策を検討することを課題とする。

本学(学生)の役割

加東市を訪れる観光客により長く滞在してもらうためのアイデアを大学生(日本人学生・学部留学生)の視点から提案する。各チームに分かれて、加東市の観光地を中心に、フィールドワークを行い、各チームで課題を見つけ、調査・分析を行い、議論を重ね、アイデアを練り、課題解決、結論へと導き、学生目線で提案することを役割とする。因みに、福岡ゼミでは、かとう伝の助隊チームは、キャンピングカーにフォーカスした「車の旅」を、加東市を盛り上げ隊チームは、加東市の既存の観光資源を生かして、日本人や外国人のマッチングにフォーカスした「出会いのきっかけを加東市で」を提案した。



最終研究発表会に向けてのプレゼンテーションA

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

かとう伝の助隊チームは、「車の旅」について、キャンピングカーの魅力やものづくり体験等を中心に、加東市を盛り上げ隊チームは、「出会いのきっかけを加東市で」について、活動やエリアやなぜ加東市か等を中心に、活動結果を、各々19枚のPPTのスライドにまとめ、成果とした。学生が成長した点は、自ら進んで発言する、他の意見を取り入れる、皆の意見をまとめる等々の点である。学生が身に付けた能力は、チームワーク力、行動力、考察力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、課題解決能力、PPT作成能力、プレゼンテーション能力等々である。



最終研究発表会に向けてのプレゼンテーションB

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
観光学科
教授
福岡 寿美子(ワコカ スミコ)

<専門・担当科目等>
言語学・日本語学・日本語教育学/日本語
B・日本語C・日本事情D・異文化交流・研究
演習Ⅰ・研究演習Ⅱ・卒業研究・自己発見
とキャリア開発A・教養特講Ⅰ(観光学への
いざない)

<関係者・企業等>